

会社キラリ

エイネット(上田市)

カーナビゲーション、デジタルビデオカメラ、携帯電話、医療システム…。エイネット(上田市下之郷)は、さまざまな家電や機器を制御しているソフトウェアに誤作動がなければ検証する、「テストのプロ集団」だ。

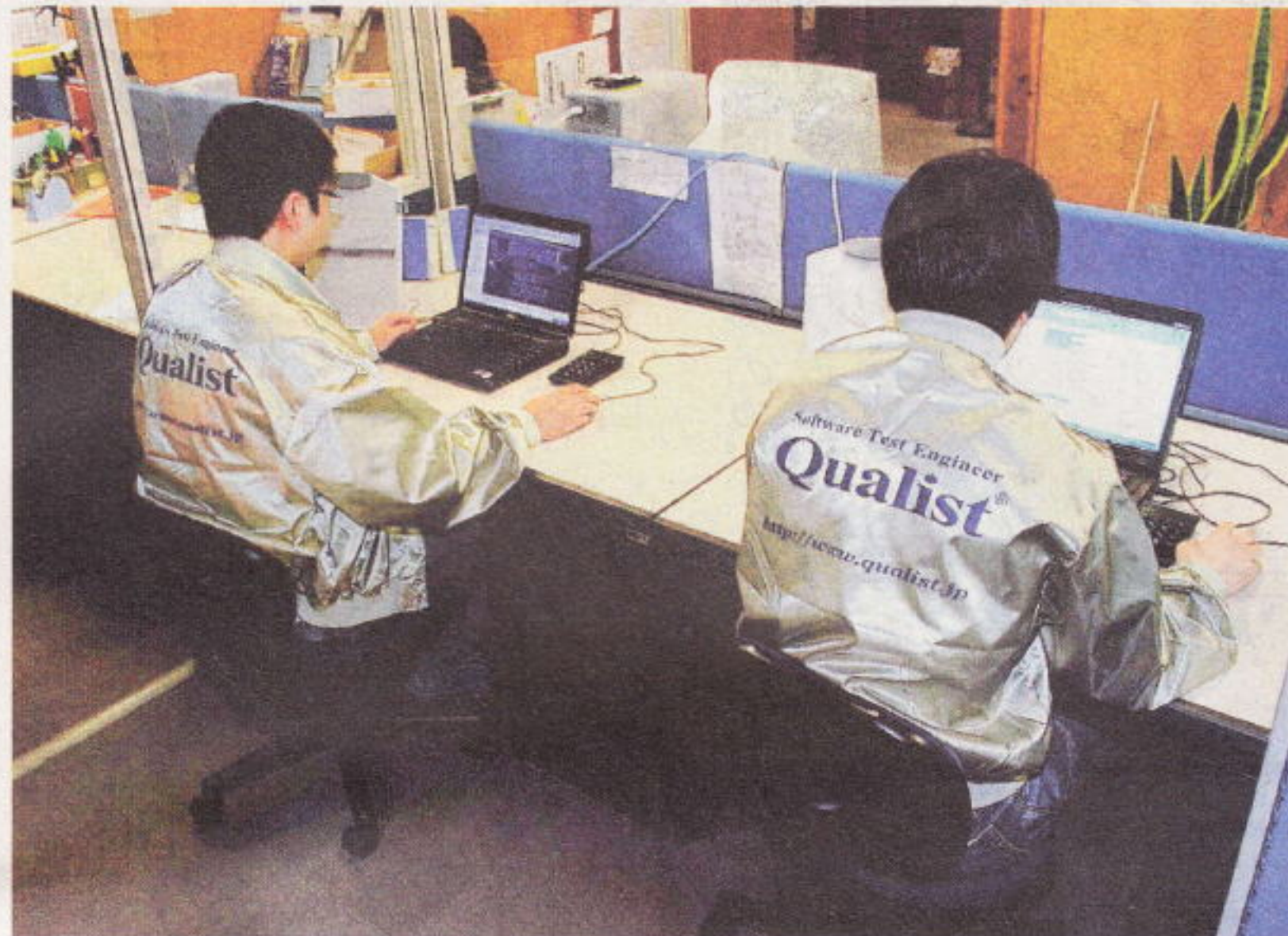
衣服に当てると色を音声で知らせる視覚障害者向けの色識別装置の製造・販売で創業。現在も点字の商品カタログを作って通信販売を継続しているものの、収益には限界もある。上田市に本社移転したのを機に、ソフトウェア開発の受託や、大手企業の製品を購入した消費者からの問い合わせに対応する「サポート業務」の受託を始めた。

ソフト検証サービスのきっかけは2000年。ある大手企業が開発した電子制御で動く玩具のサポート業務で、消費者から「誤作動ではないか」と問い合わせが多く寄せられ

た。宮島健三社長(36)は「発売前のテストはどつやっついでるのだろう」と感じたという。「2000年問題」でコンピュータの誤作動に社会的な関心が高まっていた時期でもあった。「事業化できるので」と、若手4人で始めた。当初、特に大手企業からの受注は簡単には得られなかった。しかし、例えば携帯電話は電子メールやインターネット

ト閲覧、写真撮影と次々に機能が加わり、制御するソフトも複雑化。01年にはソフトの不具合が原因で携帯電話を回収するトラブルが続いて、開発したメーカーは数十億円から100億円に上る損害を出した。開発段階のテストの重要性が増し、次第に問い合わせも増えた。

エイネットは、「Qualist(クオリスト)」と名



独自に育成した「クオリスト」を中心にソフトの検証サービスを行っているエイネット

ソフトの誤作動 徹底検証

付けた専門エンジニアを中心に、企業の製品の企画段階から参加し、綿密なテスト計画を練っていくのが特徴。「開発企業が社内だけでテストをしていると、意外な盲点が出てしまつ」と宮島社長。そこに、さまざまな製品のテストに携わっているクオリストの経験が生きているという。無駄を省いて計画的にテストを実施するため、企業側のコスト軽減にもつながっている。

エイネットが携わった大手音響機器メーカーの検証システムが今月、ソフトウェアの開発能力に関する国際基準で高い評価を得るなど、実績を積み重ねている。宮島社長は「テストはクオリストに任せれば大丈夫」と信頼してもらえるブランドに育てたい」と話している。

【エイネット】1989(平成元)年、東京で創業。93年に上田に本社移転。資本金7450万円。従業員32人。2008年10月期の売上高は約2億5千万円。